

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は下げ止まりつつある。

(注)下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)。

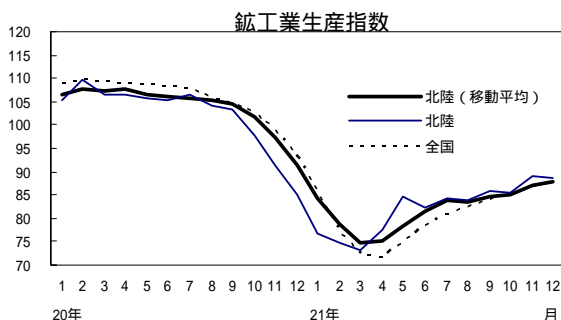
前回調査からの主要変更点

	今回(平成21年11月)	今回(平成22年2月)	
景況判断	下げ止まっている	持ち直しの動き	
個人消費	おおむね横ばい	持ち直しの動き	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

一般機械は、自動車産業向け金属工作機械や、中国向け建設機械、繊維機械が増加したことから、全体でも増加している。電子部品・デバイスは、デジタル家電や携帯電話向けに、半導体素子や集積回路などが増加している。化学は、医薬品を中心に増加している。金属製品は、受注残の減少から、アルミニウムサッシ等の建設用金属製品を中心に減少している。繊維は、自動車内装向け等の非衣料繊維が増加しているため、全体では増加している。



- (備考) 1. 17年=100、季節調整値。北陸の最新月はお速報値。
2. 全国及び北陸の太線は後方3か月移動平均。

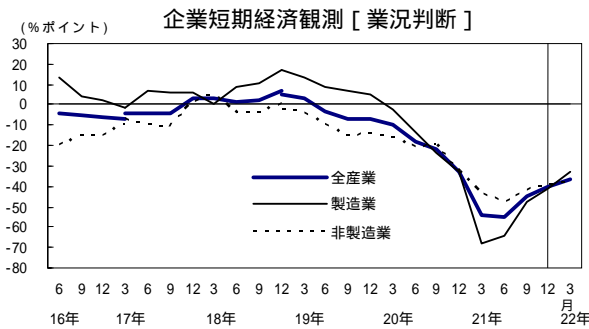
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
一般機械	16.2	15.0	17.7	-	-
電器品・デバイス	15.8	10.6	3.4	-	-
化学	14.5	3.9	1.4	-	-
金属製品	9.2	2.4	9.1	-	-
繊維	8.5	2.0	3.2	-	-
鉱工業	100.0	3.9	3.5	-	-

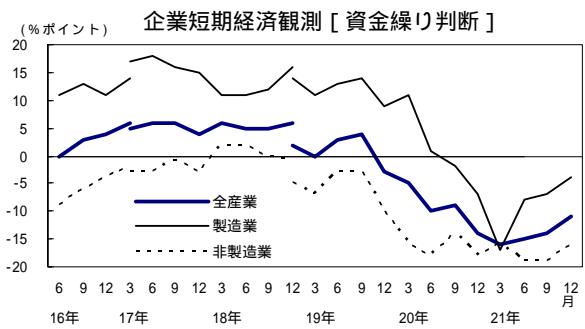
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10~12月期は速報値。
3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

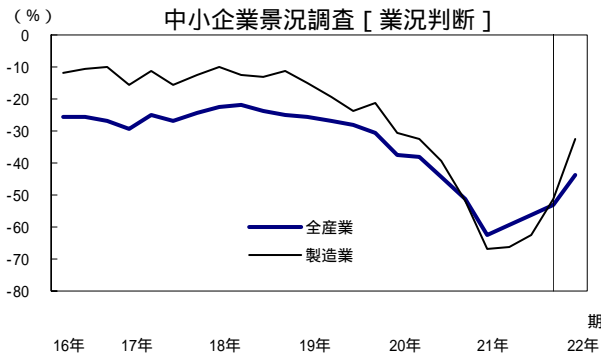
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年3月は予測。
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

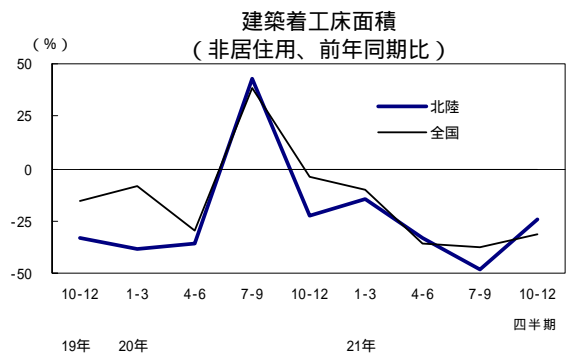
「工作機械業界はアジア向けの輸出は好調であるが、国内、欧米は良くない。アジアに販路を持っていない企業は苦戦している(一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多く見られた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	24.3	26.8 (7.8)
製造業	25.7	25.0 (12.4)
非製造業	20.9	31.0 (2.5)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

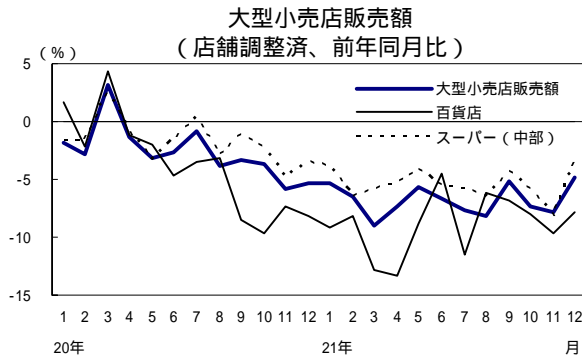
大型小売店販売額

百貨店は、10月は、9月に食品関係の催事が好調だったことによる反動で、飲食料品を中心に前年比の低下幅が拡大した。11月は、気温の高い日が続き、コート類の冬物衣料が不振だったため、衣料品を中心に引き続き前年比の低下幅が拡大した。12月は、単価の低下などにより歳暮商戦が苦戦したものの、中旬以降の気温の低下や、冬物セールの前倒しなどにより、衣料品を中心に前年比の低下幅が縮小した。

スーパーは、衣料品、身の回り品が引き続き低調だったほか、飲食料品も、気温が高めに推移し、鍋物商材などが不調だったことから低調に推移した。

景気ウォッチャー調査(12月)[家計動向関連(現状)]

「新型インフルエンザの影響で外出を控えていた人達が、12月に入り若干は戻ったものの、まだ前年割れが続いている。持ち帰り、通販など自宅消費型の商品が好調で「巣ごもり」傾向のあらわれである(一般レストラン)」など「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、「すぐに必要の無いものは購入しない、少しでも安い商品を購入する消費者の購買態度に変化はないが、最近の特徴として、閉店間際に半額程度までに低下した生鮮食料品を購入するために来店する客が増えている(スーパー)」など「やや悪くなっている」とする回答も多くみられた。



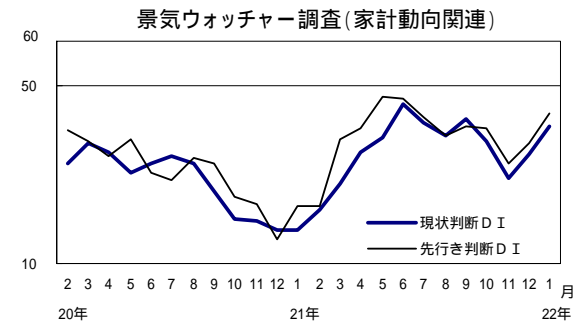
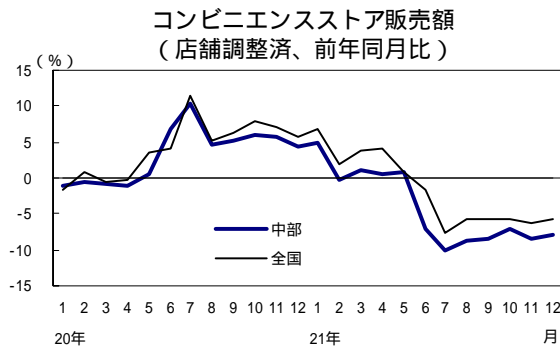
	(前年同期比、%)			
	21年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	6.9	6.5	7.1	6.5
百貨店	10.2	9.0	8.6	8.5
スーパー	5.2	5.0	5.6	5.7
乗用車	24.2	18.7	2.1	24.1
景気ウォッチャー	22.4	39.8	41.0	33.7

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

スーパーは中部地区。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。

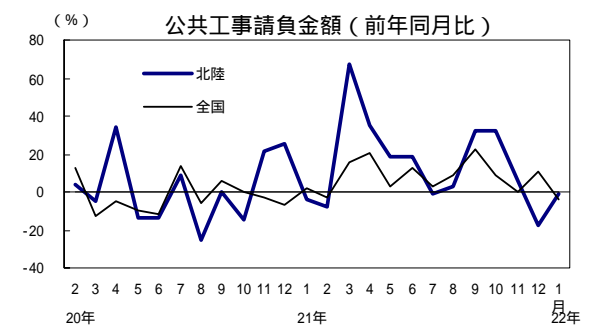
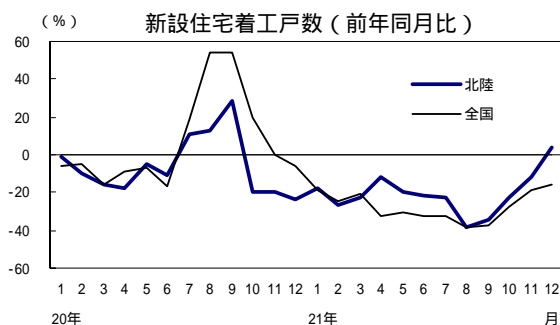
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

貸家が前年を大幅に下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。

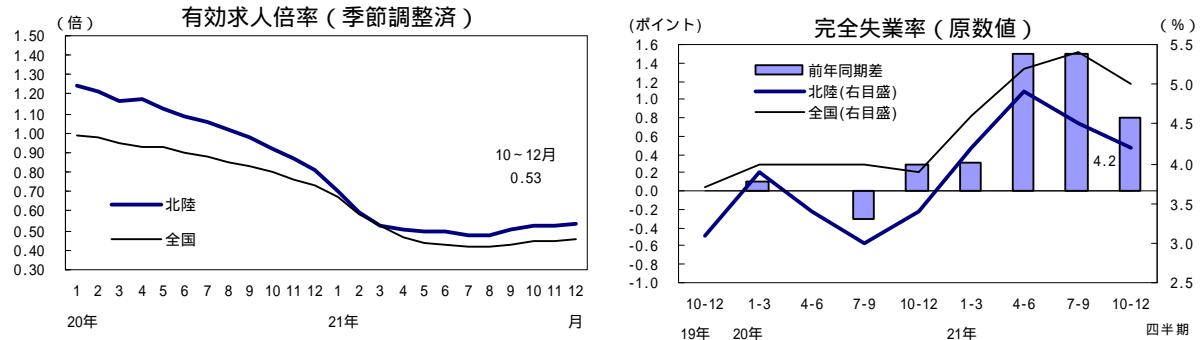


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は下げ止まりつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(12月)[雇用関連(現状)]

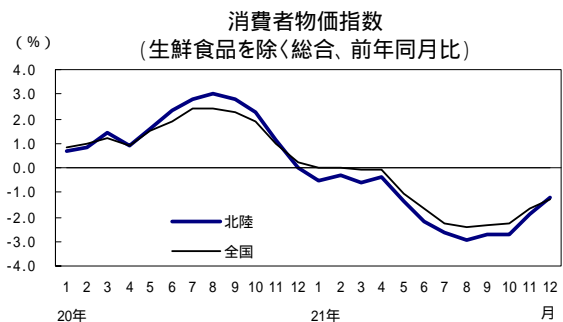
「求職者数は減少しているが、企業からの求人意欲は依然として低調である(職業安定所)など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	22年1月
倒産件数	117	103	107	117	31
(前年比)	13.6	12.0	1.8	12.0	27.9
負債総額	565	209	421	409	122
(前年比)	12.6	33.9	48.5	22.5	43.1



景気ウォッチャー調査(1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・市内電車の環状線が完成し運行を開始したため、通行量は若干増加したが、目に見える売上の増加にはつながっていない(商店街)。

<先行き>

- ・新型インフルエンザの状況がこのまま落ち着いたままであれば、年度明け以降の上海万博や平城遷都1300年祭などのイベントに対する需要が高まってくる。現に問い合わせも増えつつある(旅行代理店)。

